

2001年9月21日



慶應義塾大学先端生命科学研究所（鶴岡キャンパス）  
オープニングシンポジウムの開催

研究プロジェクト名：バイオインフォマティクス

担当研究者：富田 勝（環境情報学部教授 兼政策・メディア研究科委員）

金井 昭夫（環境情報学部助教授 兼先端生命科学研究所助教授）

キーワード：先端生命科学研究所、鶴岡キャンパス、オープニングシンポジウム、  
バイオインフォマティクス

来る10月20日および21日、慶應義塾大学先端生命科学研究所（今春開所）のオープニング記念シンポジウムを鶴岡キャンパスで開催する。「21世紀の先端生命科学」をテーマに、日本のトップレベルのバイオ研究者とバイオインフォマティクス研究者が一堂に会するシンポジウムについて紹介する。

近年、ゲノムプロジェクトにより各種の細菌から酵母菌、線虫、ショウジョウバエなど、さらにはヒトのゲノムの全塩基配列が明らかになった。また、これらの知見を基盤にすえたDNAチップによる遺伝子発現情報が大量に蓄積されつつある。ここで、これらの解析の結果もたらされた膨大なデータにどのような生物学的意味があるかを分析するにはコンピュータが不可欠であり、バイオとITの融合領域である「バイオインフォマティクス」は21世紀において生命科学の主役になると考えられている。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)では、ゲノムプロジェクトの極めて初期である1990年代半ばからバイオインフォマティクスプログラムを有し、同分野の発展に力を注いで来た。しかしながら、21世紀に期待されるのは、バイオインフォマティクスによる理論や予想を、実験生物学を組み合わせるより具体的な形として結実させていくことである。この目的を実現させるため、今春より山形県の鶴岡キャンパス内に先端生命科学研究所を設立するに至り、初代の所長として、SFCの環境情報学部教授である富田 勝 が就任した。

今回のシンポジウムは、先端生命科学研究所のオープニングシンポジウムとして位置付けられ、同研究所の教授陣をはじめとした、日本を代表するようなバイオ研究者とバイオインフォマティクス研究者の講演やパネル討論が予定されている。また、鶴岡市民に対する公開講演会や実験施設であるバイオラボ棟の公開なども含まれている。同研究所では日本の大学院としては初めてのバイオインフォマティクスと実験生物学の融合したコースを設置しており、このシンポジウムを境として、日本のみならず、世界的な研究の拠点となっていくことが期待される。なお、シンポジウムの詳細は<http://iab.itbcom.co.jp>を参照されたい。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

広報担当 : orf-press@sfc.keio.ac.jp